

キラリ高等学校 令和6年度 事業報告書

1. 教育の取り組み

内容	実施状況・課題
<p>(1) 静岡県で最初に認可された狭域制私立通信制高校として様々なニーズに対応するために、総合的な教育力をより一層向上させる。</p> <p>① 基礎学力の確実な定着を図る為、各教科担当間のコミュニケーション量を増やし、情報を共有した上でより分かりやすい授業を展開する。生徒・保護者面談を通し、主体的に学習に取り組めるように導く。</p> <p>② 学校内はもとより、校外での生活指導も継続して実践・強化し、基本的な社会性・モラル・社会通念上の規範意識の徹底を図る。</p> <p>③ 遠足・修学旅行・文化祭などの特別活動や校外スクーリングをより充実させ、多くの生徒が積極的に関わられるようにする。(全体での体育祭開催)</p> <p>④ 進路選択において必要な基本的な知識・技能を育成し、進路決定を自ら推進できるように導く。</p>	<p>(1) 静岡県で最初に認可された狭域制私立通信制高校として様々なニーズに対応するために、総合的な教育力をより一層向上させる。</p> <p>① 生徒数も増え以前に比べ、学力差が大きくなり、授業内での個々への対応が課題となった。主体的に取り組む生徒は多くなったように思われる。教科にもよるが、基礎学力の定着にはまだまだ時間がかかる。</p> <p>② 以前とは異なり生徒層も変化してきたため、校内における生活指導はほとんどなくなり、校則遵守の傾向が表れているが、家庭および郊外での問題行動が度々起きている実態から、さらに規範意識の徹底を進める必要がある。</p> <p>③ 生徒の自主性も高まり様々なイベントに参加する生徒は増加傾向にあります。内容の吟味がなされ、生徒にとって魅力のあるものが提供できたが一方で、不参加の生徒へのアプローチが必要である。</p> <p>④ 年々進路に対する生徒・保護者の意識は高くなってきています。以前は卒業を目標にしていた生徒がほとんどでしたが、総合の時間やガイダンスを通じて意識付けをおこなうことにより自ら進路選択に動き出す生徒も多くなっている。</p>

(2) 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、より細やかな指導を行う。

- ① 困難を有する多様な生徒(不登校傾向・問題行動・発達障害等)が積極的かつ十分な教育を受けられるように、学習に対する動機付けや学びの意欲を喚起できる教員の養成を行う。(スクールカウンセラーの活用)
- ② 個別対応、部活動、キャリア教育、インターシップなどの分野に十分に対応できる教員数の確保を行う。また、専門の機関(企業)の協力も進める。
- ③ 各校舎・各教科単位で内部研修を実施し、キラリ高校の職員として共通の認識の上で、教職員の組織化を推進する。また外部研修を活用して、多様な困難を有する生徒に対する支援強化を行い、各教職員の指導力・対応力を向上させる。(全体での教科研修の定例化)
- ④ 未履修・休学中の生徒・保護者へのアプローチを継続して行い、再履修および復学を促す活動をする。
家庭訪問の計画的実施を行う。

(3) 技能連携教育施設(各スクーリング会場)のカリキュラム(コース)の改編を推進し、通学タイプの充実を図る。

- ① より多くの生徒が通学タイプの全日スタイル選択しやすいように、コース内容の改編を図り、魅力溢れる内容転換を目指す。
- ② ①を推進するために、スクーリング会場ごとに担当を決め会議を行い、コース内容の検討・充実化を図る。

(2) 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、より細やかな指導を行う。

- ① 全ての校舎にスクールカウンセラーを配置したことにより、個々に支援できるケースも増えた。生徒・保護者に対する継続したカウンセリングを行うとともに、教職員に対する研修も取り入れていきたい。
- ② 年々定着する教職員も増え、様々な状況の生徒に対応できるようになっては来ているが、十分な教職員数という観点では、まだまだ推進が必要である。
- ③ 情報の共有や様々な研修を通して各教員の対応力・指導力は向上しつつあります。ただ、各校舎における教職員個々の技能・技量が異なり、目標とする機能的集団には至っていない。
- ④ 未履修・休学状況の生徒は一定数います。そのほとんどが、精神的・経済的問題から履修できなかつたり学校に足を運べなくなっています。就学支援金の援助額が多くなってきてはいるが、それでもなお支払いがとどこおるご家庭に対する支援(対策)を考えたい。

(3) 技能連携教育施設(各スクーリング会場)のカリキュラム(コース)の改編を推進し、通学タイプの充実を図る。

- ① 授業内でのレポート解説の実施により通学スタイルへの参加が増加したが、きめ細やかな指導は各教職員の指導力・対応力によるところが大きいいため、校舎により差異が生じた。
- ② 学力別のクラス分けをしながら、対応

③ 他会場との連携および意見交換を積極的に行い、より綿密に個々の生徒へ対応する。また昨年来の課題であった授業研修を本格化させる。

(4) 吉田本校の整備・拡充

① 定着しつつある週 3 日の平日クーリング（ウィークリースタイル）を継続して実施し部活動・キャリアデザイン・インターンシップ・ボランティア等様々な活動を通じて、高校生活の充実を図る。

② 生徒の社会性を高めるために各種イベントを企画することで、様々なニーズに合わせた学校生活の充実を図る。

(5) ICT教育及び、校務システムの整備事業

① インターネット授業配信を円滑に進め、さらにレポート(添削指導)のデジタル化への移行準備を推進する。

② 校務支援システムに関して、生徒増に対応すべくさらなる業務の効率化を図る為、システムの整備・拡充を図る。

し、学力差を埋めていますが、まだまだ個々への対応（満足度）は検討の余地があります。なお、不登校傾向の生徒たちが全日スタイルを選択するには、さらなる授業内容の精査と生徒のニーズに合ったコース再編が望まれる。

③ スプレッドシートの使用によりどの会場からも授業参加状況が一目でわかり、コース別・教科別の情報が共有できているので、意見交換に役立っている。また特別な支援を要する生徒も増えつつある中、専門機関との交流・連携はまだまだ図れていない。特に今後キャリアアシストコースへの積極的な推進が必要である。

(4) 吉田本校の整備・拡充

① 週 3 日のウィークリースタイルの生徒の割合が年々増加しており、部活動も少しずつ増え始めています。吉田特別支援学校で実施されるイベントへのボランティア参加も常連となっており、今後も継続していく。

② 生徒運営委員会・美化委員会・図書委員会等生徒自ら様々な形で学校に関わり、積極的に人との交わりの機会を作った。

特にオープンキャンパスの運営や文化祭・体育祭・クリスマス会の企画など多くの成功体験を残せた。

(5) ICT教育及び、校務システムの整備事業

① 授業配信の部分は全体的にはうまくいっています。一部を除き生徒側の視聴も大きな問題が生じることなくいっています。レポート(添削指導)のデジタル化への移行準備

	<p>も一定の筋道は建てられた。</p> <p>② 今年度は大きな変更は行っていないが、年々業務が効率化されてきた。但し、通信制に適応するためのさらなる整備・拡充には費用が高価なため、熟考を要する。</p>
--	---

2. 生徒募集・広報活動

- (1) 本年（令和6年）より県から300名の定員増加の認可を受け、生徒募集・広報活動に取り組んだが、本年度中で1500名を超える生徒募集ができた。
- (2) 中学校（普通級・特別支援学級）・高等学校の訪問強化については、広報担当・会場長を中心に精力的に実施した。
- (3) 説明会 ⇒どの説明会も数多くの生徒（保護者）・教諭に参加して頂けた。
- ① 独自説明会（中学校教員対象）11月中旬・・・吉田本校（志太・榛原地区）、浜松会場（西部地区）、静岡会場（中部地区）、沼津会場（東部地区）
 - ② 各市町村教育委員会等説明会（不登校生徒・保護者・中学校教員対象）
→ 予定されていた説明会は全部参加し、キラリ高校の広報活動を積極的に行うことができた。
 - ③ 私学展（生徒・保護者）
→ 新しい集客方法を試しながら、生徒・保護者の参加を得ることができた。
 - ④ 社会教育課主催相談会（静岡市・浜松市・島田市・富士市・沼津市）
→ 予定されていた説明会は全部参加し、キラリ高校の広報活動を積極的に行うことができた。
 - ⑤ 学びリンク主催他、友好的な学校説明会への参加
 - ⑥ フリースクールへの訪問と連携
 - ⑦ サポートキラリとの連携
- (4) 個別相談・学校見学 随時行い多くの生徒・保護者に対してキラリ高校の魅力を説明し、出願増の基礎となった。
- (5) オープンキャンパス・放課後説明会（【夏】6～8月【秋】9～11月【冬】12月～1月と位置づけ、例年より早い仕掛けをし、多く動員することができた。
吉田本校、浜松会場、静岡会場、沼津会場

(6) 生徒募集広告

TVCM については前年と同様に実施。新聞広告については見直しを行い昨年同様中止した。また、例年以上に WEB 広告 (Google、YouTube 広告) の比率をあげ広い層に告知を行った。

(7) ホームページの活用。

ホームページのトップ画の動画化を含め、リニューアルに伴い、キラリ高校らしさを全面にうたったものとした。また、WEB による出願受付により生徒・保護者への利便性が向上した。

デジタルパンフレット・動画配信 (ホームページ上) の活用を行った。

3. 令和6年度 在籍生徒数

	学校基本調査時 5月1日	前期卒業生(9月卒業生) 等を除外した最大在籍数
計画	1500	1500
結果	1560	1614

4. 教職員関係

区分	職名	男性	女性	計画
教員	校長	1		1
	副校長			0
	教頭・副教頭	1	1	2
	教諭・常勤	23	14	37
	養護教諭		3	3
	非常勤	4	5	9
職員	本務	3	3	6
	非常勤	1	6	7
計		33	32	65

5. 今後の課題

- (1) 授業環境を重視するための教職員の確保。(TT の活用)
より効果的な WEB・SNS 広告による募集。
- (2) 困難を有している生徒の学業・就職支援 ⇒ 学業に関しては個々の対応をより多くする。就職に関しては進路担当を中心に就職先の拡大を図り、同時に就労移行支援機関（アクセス・ジョブ）との協力の下、実践的な就活指導や支援体制の強化を図る。
- (3) 校務支援システムの仕様アップの為、更なるカスタマイズが必要。
- (4) 図書室蔵書 5,000 冊設置 ⇒ 現在約 4,200 冊。図書基準に沿って蔵書を増やしていく。
- (5) 認可基準に合致する施設設備の環境整備については、必要性が高い物から順に整備を進めていく。
(本校移転を含めた体育館建設・沼津校の増床)
- (6) オンライン（双方向）授業の確立。
現時点では、文科省・教育委員会の見解は、オンライン授業を正規の授業（単位認定）として認可していませんが、オンライン（双方向）授業の確立は、今後のキラリ高校には必須課題となる。
Wi-fi 環境の整備・通信機器の整備・教員側のスキルアップが必要。